

第1節 生涯学習を推進する

■現状と課題（前期基本計画までの成果を踏まえて）

近年の情報化の進展や自由時間の増大などを背景として、幼児期から高齢期までの生涯を通じて学習を行うことができる社会の実現が求められており、「より豊かに生きること、社会の中で自分を活かすこと」は市民の願いにもなっています。今後は、高齢化の進展や価値観・ライフスタイルの多様化により、生涯学習に対するニーズがさらに高まることが予想されます。こうしたことから、より多くの市民が主体的に学習することはもちろん、市民自らが学習者であると同時に学習指導者として、学習成果を地域社会に還元できる仕組みづくりが求められています。

本市においては、社会情勢等の変化に対応し、今日的な視点から施策を進めるために、平成6年5月に策定した「城陽市生涯学習まちづくり計画」を見直し、平成20年12月に「城陽市生涯学習推進計画」を策定しました。市民が主体となった生涯学習を推進するためには、市・市民・地域が主体的に活動し、積極的に協働することが必要となっています。

また、多様化、高度化する生涯学習社会に対応するため、生涯学習の基盤を培う学校教育の充実や家庭・地域の教育力の向上はもとより、大学や民間企業との連携などにより新しく、より専門的な学習機会の充実も必要となっています。

さらに、生涯学習活動を支えるため、文化パーク城陽や城陽市総合運動公園をはじめとして、生涯学習施設の整備・充実を図り、より一層の学校教育と社会教育の連携の促進が必要となっています。

■基本方針

- 市民が自ら学び、相互に学びあい、自ら行動することにより、自己を高め、生きがいをもって社会に貢献する教養豊かな文化の香りの高いまちをめざします。
- 市民が生涯にわたり、いつでも自由に学ぶことができる環境と体制を整備し、魅力的で活力あるまちをめざします。

■まちづくり指標

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の目標	めざすべき目標
			(平成22年度)	(平成28年度)	
生涯学習に係わる様々な講座へ参加している市民の割合	まちづくり市民アンケート結果	%	20.5	29	100

まちづくり指標名	説明	単位	現状値	5年後の目標	めざすべき目標
			(平成22年度)	(平成28年度)	
生涯学習施設の利用者数	文化パーク城陽、コミュニティセンター、公民館、総合運動公園、市民運動広場、市民プール、ぱれっとJOYOの延べ利用者数	人	1,814,241	2,040,000	↑

■主な施策の展開

(1) 生涯学習推進体制の整備・充実

「いつでも、どこでも、だれでも、たのしく、ともに学び、ともに育ち、ともにつくる地域社会」を目標に、平成20年12月に策定した「城陽市生涯学習推進計画」に基づき、生涯学習施策を推進し、また城陽市生涯学習推進会議において評価等を行うことで、総合的な推進体制の整備・充実を図ります。また、市民の自主的な生涯学習活動を支援するシステムの導入を進めるとともに、学校教育と社会教育の連携の促進を図ります。

(2) 学習機会の充実と学習支援

文化パーク城陽などの生涯学習施設の機能を有効に活用し、市民の学習ニーズに対応した生涯学習プログラムの内容の充実を図るとともに、積極的な学習情報の提供を推進するなど、市民の学習活動を支援します。

(3) 生涯学習施設整備・充実

市民が自らの意思により、いつでも自由に学習ができる生涯学習施設の整備・充実を図るとともに、生涯学習に関する講座の開催や指導者の育成など、総合的な機能を有する生涯学習センターの設置を検討します。

■市民まちづくりワークショップからの提言（平成18年）

市民の役割（例示）

- 学習指導者や地域ボランティアなど、自らの学習成果を積極的に地域へ還元する。
- 生涯学習施設において、市民自ら講座を立ち上げるなど、学び合いの機会を設けて、参加する。
- 地域住民が所有している郷土に関する資料・情報を提供する。
- 生涯学習施設の施設運営や市民が望む生涯学習プログラムの作成などに積極的に参加する。

■PR施策

○城陽市生涯学習推進計画

社会情勢等の変化に対応し、今日的な視点から施策を進めるために、「城陽市生涯学習まちづくり計画」を見直し、平成20年12月に「城陽市生涯学習推進計画」を策定しました。

市民一人ひとりが生涯学習活動を通じて、人と人がつながり、豊かな地域社会を発展させていくという観点から、「いつでも、どこでも、だれでも、たのしく、ともに学び、ともに育ち、ともにつくる地域社会」をめざしています。



【生涯学習講座の様子】